道

発　行　真言宗豊山派　霊松山歓喜院
金　剛　寺
〒371-0241　前橋市苗ヶ島町 1147
TEL 027(283)6918 FAX 027(283)6815
http://www.raijin.com/kongouji/

「黙祷でも合掌を」

真言宗豊山派　玉田寺住職　鈴木　隆彰

この度、金剛寺様の寺報に拙文を載せていただくことになりまして大変恐縮しております。志田洋遠御住職は檀信徒の皆さまがよくご存じのように、自坊や地元だけでなく、全国にてご講演をなさって布教していらっしゃる方です。また、現在、豊山派群馬中部支所現支所長を務めております私は、志田住職には前支所長として、支所運営その他不案内のことにつきまして、何かとご指導していただいております。

このように言わば師匠のような立場の志田住職の寺報に、浅学非才・未熟な私が、と思う次第ですが、このような経験も勉強だと強いて思わせまして、載せて頂く次第です。

さて、今年の三月十一日の「東日本大震災被災者回向」は七回忌になりました（もっとも新聞やテレビ報道では六年経過したという言い方でした）。私は三月の東日本の時もそうですが、八月の広島長崎、御巣鷹山、一月の神戸等々の慰霊追悼の報道を見るたびにいつも思うことがあります。

それは、なぜ、「黙祷」と合図があったときに追悼の気持ちを表現するのに「合掌」をしないのか（もちろん、キリスト教徒イスラム教徒なら別ですが）。申し上げるまでもなく、公の追悼式の場では、信教の自由から特定の宗教行為はできないために主催者は「黙祷（無言のまま心の中で祈祷すること・広辞苑）」という追悼行為にするわけです。しかし、多くの日本人は、日常、ご飯を頂くときにも合掌して「いただきます」「ごちそうさまでした」と普通にします。このような普通に当たり前にしている合掌を、亡くなった人の霊を追悼する大事な時に、どうしてしないのでしょうか。

「黙って祈る？」というのはひじょうにやりにくい動作です。無言とはいっても、心のなかでは、祈りの「念（気持ち）」を表さなければ、単に「頭を下げて黙っているだけ」になってしまいます。

仏教では両手を「慈と悲」「仏界と衆生界」などに配しますが、私ども真言密教では「身口意」の三業という所作の中で、手に印を結ぶ行為を身業と言います。「合掌」も一つの印です。身業です。僧侶は金剛合掌という指を交差させる合掌をします（専門的には、「合掌」にも、「十二合掌」と言って十二種類あります）。「合掌」し、「被災者精霊安らかに」と唱え、「心の中で精霊を想う」行為は、身口意の三業を同時におこなう真言宗の祈りの作法の最も基本の大切な行為なのです。たとえ「黙祷」と言われても「合掌」して追悼の気持ちを強く表して頂きたいと思います。

私たちは、生きていることの有り難さを思い、先祖様のご恩を忘れず、いつでも、謙虚な心で「合掌」ができるよう心がけましょう。

南無大師遍照金剛　合掌

次世代の〝志田洋遠〟の育成を

週刊仏教タイムス記者　山崎　一昭

私が志田先生と初めてお会いしたのは、もう十年も前のことになります。場所は、東京・護国寺の豊山派宗務所だったと記憶しています。その頃の私はまだ仏教タイムスの記者になったばかりで、どこに取材に行くにも緊張しておりました（これは今もそれほど変わりませんが・・・）。ところが先生とは一言挨拶を交わした瞬間から初対面という気がせず、どこか懐かしいような、旧知の方に再会したような安心感を抱いたことを昨日のことのように覚えています。以来、記者と取材対象者という関係を超え、時には師弟のような、時には親友のような、一口では言い表しがたい、親しいお付き合いをさせていただいております。

私が最初に志田先生に抱いた〝懐かしさ〟は、先生が青少年教育に情熱を注いでこられたことと深い関係があると思います。私が感じた安心感の正体は、不良少年・少女というレッテルを貼られてきた子、いじめに苦しむ子、貧困の中から立ち上がろうとする子など、それぞれの心の奥底にある、言葉にならない「叫び」を、何十年にもわたって全身で受け止めてきた人が醸し出すことのできるオーラだったのでしょう。

「子どもは幸せになる権利がある。大人は子どもを幸せにする義務がある」。先生の口癖です。多くの子どもたちが自分をまるごと受け入れ、寄り添ってくれる先生と出会い、立派な若者に成長していきました。その中でも特に、私の心を捉えて離さない女の子のことをご紹介いたします。

数年前、年の瀬の金剛寺を未青年後見人の女性が訪ね、ある夫婦の遺骨を預けていきました。明けて正月三日、十六歳の女の子がお寺に来ました。「今日は、母の命日だから」。彼女は、八歳で父親を、十二歳で母親を亡くしていました。遺骨は、彼女の両親でした。「両親の永代供養をしたいのですが、おいくらですか？」とおもむろに切り出した彼女に、先生は「あなた二十歳になるまで、お金の話は一切しないで、お骨は預かってあげるよ。でも、それまで警察の厄介になるようなことだけはしないと、約束してほしい。お父さんとお母さんはあなたのことを心配して、後ろ髪を引かれる思いで亡くなったと思う。ご両親のお骨を泣かせてはいけないよ」と返したそうです。「がんばってみる！」彼女は力強く約束しました。

彼女の親族らは、十二歳の少女から両親の遺産を奪い、彼女を遺骨と共に施設に入れました。彼女は「つらいとき、遺骨を出してお祈りしていた」といいます。中学を卒業しましたが、「無一文、保証人なし」の彼女に世間は冷たかったそうです。心ない大人に騙されそうになるなど、危険な目にも遭いました。

彼女が約束の「二十歳」を迎えたとき、先生は境内に永代供養墓を建立し、両親の遺骨を埋葬したいという彼女の願いを叶えました。彼女は今、生き生きと暮らしています。

この女の子のことを思い出す度に胸が熱くなり、涙がこみ上げてきます。私は彼女と会ったことはありませんが、「よく頑張ったね。志田先生と奥様に出会えて本当に良かったね」と声をかけたい気持ちになります。彼女にとって、金剛寺は実家、志田先生と奥様はまさに親代わりです。

志田先生には、会う人の不安を安心に変え、緊張を親しさに昇華させてしまう独特な包容力があります。金剛寺の玄関先には、青少年相談所の表札が掲げられています。これを見てやって来るのは、子どもだけではありません。大人も救いを求めて、その門を叩きます。はるばる遠方から来る人もいます。皆、「この人なら自分の気持ちをわかってくれる」という切実な思いを抱えています。それは同時に、それほど世の中には打ち明ける場所のない悩みに苦しんでいる人が大勢いるということでもあります。全国各地に、そういう人が真っ先に駆け込めるシェルター場所が必要なのです。

私がただ一つ、心配しているのは、七十代半ばを迎えた先生の多忙さです。今の先生のお元気さに接しておりますと、あと二十年は現役で大丈夫だと確信しておりますが、それでも相談者が今以上に増えれば対応に限界が出てくるでしょう。

今、求められているのは、先生が行ってきた活動を個人の活動のままにしておくのではなく、社会的に広げ、ネットワークにまで高めていくことです。先生の相談活動が特別なことではなく、日本中どこでにでもある「心のセーフティーネット」になれば、どの地域でも安心して暮らせるようになるはずです。悩みがないのが安心なのではなく、悩んだ時に駆け込める場所があることが本当の安心に繋がるからです。

その意味で、先生にはこれまでの少年補導ケースワーカーや保護司、教誨師、行政相談委員などの経験や仏教者としての祈りの心を、僧侶・一般人に関係なく志を持った後進に全て伝え、一人でも多く次世代の〝志田洋遠〟を育成していただきたいと願っています。

巣立ちのとき

川畑　輝芳

和尚様、この七年間私の為に幾度となくお力を頂き、そして窮地から救い上げて下さいましたこと本当に有難う御座居ました。

初めてお会い致しました日より今日に至るまで、和尚様・奥様の真心からの御支援なくして現在の自分無し。と今私は感謝の心で一杯です。

老母を通じ賜りました和尚様との御縁。

その日より和尚様・奥様には正に親代わり以上のお心をもって私を支えて下さいました。

和尚様、私は生涯心に刻まれ消えることの無い和尚様のお言葉を忘れません。

まさに自死決行直前の時、微動だにせず、即座に私に投じられました救いと希望のお言葉は、他の如何なる方をも不可能な、和尚様のお心無くしては決して得ることの出来ない正に、九死に一生を得る救いのお言葉でした。即ち、「そうか。よくやったな。」「今一番何がしたい？」。このお言葉を聞いたその瞬間、私の心に強力な光が射し込み、そして一瞬前までは思いもよらなかった、本当は生きたいと言う悲願を甦らせてくださいました。

月日が経ち、今私が思いますのは、あの時私が命を取り留めた事は、同時に私一人の人生の再出発の日をも明示していたのではないかと言うことです。和尚様・奥様は七年間にも渡り未熟な私の心を養って下さいました。今私が自ら和尚様・奥様のもとを巣立って、自分の人生を自分一人の力で前進してゆかない限り私自身の道はいつまで経っても切り開かれることはありません。

「人は皆、一人で生れ、一人で死んでゆく」今こそ和尚様の教えを胸に一人の船出を覚悟をもって決する時と思います。そしてたとえピンチのときにも我が心は常に和尚様・奥様と言う仁王様在り。どんな時にも三人力であることを忘れずに乗り切って行ける筈です。

和尚様、私は今再び自身に確かめます。

人生とは喩えれば波の上に在って母なる丘の上に約束された途ではない。その航海はいつ転覆・沈没してもおかしくない。横波あり嵐あり。貴方がどう舵を取り出来るか、していくかだ。その一瞬も大航海。その一瞬もあっぱれと。今私は和尚様・奥様から信じられ、授かり直したこの命を決して世に恥べきことなく自身の道を進んで参ります。

和尚様・奥様、長い間私を信じ大きな愛をもって御支援下さいましたこと、今心より深くお礼申し上げます。

「ぼくのおまいりがながいわけ」をよんで

小学二年　きたづめ　なな

6月に、こんごうじで、おじいちゃんの三かいきをしました。そのときに、ごじゅうしょくさんに、この本をいただいたので、かんそうをかきます。ぼくのおまいりがどうしてながくなったかというと、もうすぐ赤ちゃんが、うまれるからでした。あかちゃんをまもれるいいおにいちゃんになるために、ピーマンをたべたり、ちゃんとはみがきをしたり、いろいろがんばりました。それを　ほとけさまや、おじいちゃんおばあちゃんがみまもってくれていたので、ぶじ赤ちゃんがうまれました。いつもいろいろなことを、がんばっていればほとけさまや、なくなったおじいちゃんが、みまもってくれて、ねがいがかなうんだなと思いました。さいきん、わたしもピーマンが食べられるようになりました。これからも、べんきょうや、ピアノのれんしゅう、一りん車のれんしゅうなどをがんばりたいです。

金剛寺興隆碑造立に至る備忘録

金剛寺　責任役員　東宮　惇允

「群馬歴史散歩」２０１７年第２４９号の３４・３５頁に「金剛寺興隆碑を読む・北爪隆雄」が掲載されているので参照して戴きたい。

碑文に「・・・・明治の初世運一變仏法大衰紺園・・・・以下北爪先生の読解に依る・・・明治の初め世運一変し仏法大いに衰ふ。紺園秕林を鋤しいて田と為すもの甚だ多し、我が寺亦大いに旧観を損ふ、有志の者、之を憂ふ、時に寛運師令誉有り、薦められて住持となる、此れを第十八世となす。師夙夜勵精教えを弘め道を傳ふ卅余年1日の如し其の化するや四方を被ふ弟子寛榮師も亦興って力有り・・・廿九年転轉じて奈良縣豊山派長谷寺に隷る・・・」明治時代に入ると廃仏毀釈等の政策により仏教界は受難の時代を迎えます。わが金剛寺の檀家も地元の指導者斉藤多須久翁指導の下、新道大成教の信者に転じて行きます。しかし嵐の様な過激な騒動も次第に沈静化し、明治３０年頃には荒廃した菩提寺を再建しようとの機運が高まり出します。（東宮六郎治金剛寺大門敷石工事日記抜粋）

同寺檀信徒総代人　上野東太郎、東宮六郎治、長岡国太郎、高井丑郎

明治三十四年一月十八日　石橋重三郎、手島弥文治、松村林次郎、豊島秋太郎、前原久弥、上野東太郎、東宮六郎治の七名、天蓋寄付の談事いたした所、諸氏（松村）曰く、大門に敷石を添え込みたい、その寄付募集の事如何にと一同に同意を求む。

一月十九日　昨日の談事の結果を住職の松山寛運殿へ前原久弥、東宮六郎治両名にて推参。相談したところ、住職は大賛成し、直ちに金五円寄付致すと申す。

二月一日　前原久弥、上野東太郎、東宮専次郎、手島弥文治、松村林次郎、豊島秋太郎、石橋国次郎、関口庄次郎、東宮六郎治。馬場村・鹿田彦八、長岡周次郎。大前田村・高井丑郎、磯田八重吉。新屋村・田島利三郎倅。室沢村・小池善吉の十五名にして満場賛成。

寄付募集法は、本年九月五日より三十五年九月五日まで、二期に徴収。

但し、石碑彫刻は金五〇銭以上とする、終わりに、当村出席の者共寄付を決す。

東宮六郎治石門、前原久弥天井及び欄間の掃除、上野東太郎二十五円、豊島秋太郎十五円、関口庄次郎十円・・・・（石碑裏面記載あり）。

四月四日　前原久弥、上野東太郎、東宮六郎治の三人、寺に集まり工事の受け渡しを左にす。敷石を秋山徳太郎へ、本堂前四列敷く、十間及び初太郎宅地前東南隅より新店裏まで二側三十間を四列敷一間に付き金三円の割にて渡す。

明治34年

本堂前4列敷10間　1間3円
初太郎前東隅～新店裏まで30間　秋山徳太郎
当初2列　のち4列に変更
大川入口の西より東へ4列敷10間　金井春五郎
新店裏石垣13間　高さ3尺
石塔及び供養塔取り片付け　勅使河原浦三郎、覚本（深町）作次郎
大門入口突き当り百万遍建直し　秋山徳太郎
本堂外縁（大工工事）　谷川佐吉

明治35年

門横着手（３月２日）　鈴木源太郎
門横石上げ　武田與一
大門横植付け　北爪民吉
大門立始（５月３日～５月13日）
５月13日表門成立　５月18日開通式
（長岡国太郎、上野東太郎、東宮専次郎、手島弥文治、石橋国次郎、松村林次郎、東宮六郎治の7名、松山住職、中沢徒弟の読経あり。）
５月21日　寄付石碑を探し、（前原久弥、東宮六郎治、前原善次郎）。
22日　長畑前原信治殿の山林へ行き、そこの石に決める。
右の石に付き土木委員４氏集会、前原善次郎氏宅にて前原信治氏に出会い右山林の石を貰う事を申入れた所、速やかに承諾を受ける。
９月24日　寄付石碑引取り費見積もり、東沢の石を31円、瀧澤の石を44円。
10月 9日　石碑選定の為に5人登山、両方見分の上に東沢の石と定める。

明治36年

３月26日　三夜沢井上氏へ石碑礼金について話し合う。
４月６日　石碑引き取り前原久弥他9名と中澤寛栄、その他、人足10人
石工１人　受負4人　木挽き1人　合計26人。
４月７日　26人。
４月８日　28人。
４月９日　総勢30人にて建碑の場所まで引く、この日数4日なり。（寺役9人外金井春五郎受負主4人、人足16人。この台石見分をし東宮専次郎宅地裏石と定む。
５月10日　石碑及び台石引取費「碑石費」現金高現金33円60銭5厘の外寄付人足55人この賃金27円50銭。「台石費」現金支払高金33円60銭5厘の外寄付人足62人この賃金31円、双方合わせて支出金73円73銭、同寄付人足117人、有給人足59人世話人83人契約人足259人なり。
10月４日　中澤、東宮両人にて金井春五郎石工へ碑石磨きの儀見積もらせた処、表面20坪として60人、1坪3人積もり、裏面同坪として40人位、1坪2人積もり総計100人この手間代特別として金42円、石平らし共外小屋掛け費金3円都合45円の見積もりなり、予算と大差につき至急寄付の事と談す事。

明治37年

３月25日　中澤賢濟、東宮六郎治2人にて碑文揮毫の為出京す、27日田端興楽寺僧正へ依頼す。
５月21日　中澤師東京へ碑文の件で発足。
５月29日　碑石裏面彫刻準備の為集会3人、取調の結果寄付者及び発記者、工事委員総計246人、この寄付石門2、基金630円95銭の文字数1548字なり、次に石工金井春五郎、秋山徳太郎両人を呼び彫刻為す見積り候、1文字に付き丸堀にて金2銭6厘、項目文字52文字共都合1600文字に付き金57円60銭、ヤゲン堀りにて1文字金3銭これは1600字に付き金48円の見積もり。

明治38年

３月５日　彫刻着手職工武田與一。
４月20日　礼拝石の見立ての件、庭師尾崎助作と見分、村社並びにの石と確定す。
４月28日　礼拝石掘り出し。
５月２日　台石、碑石入れる穴掘。
５月６日　庭師尾崎他人足7人及び世話人6人にて礼拝石そえ付け。
５月11日　庭師尾崎へ仕事相渡す。
５月25日　池粗堀り、北爪民造の池堀りすべて仕揚がる。
７月23日　建碑の費金335円71銭、庭師の仕事出来、この手間38人、植木引取手間12人、池堀手間大旨30人総計80人。

明治41年

４月14日　竣工式執行、当曇天櫻花2～3分通り開き、式費用総計金93円3銭4厘内決す大略酒2本代金26円盃約金13円各250づつ蚕影山護摩費として中澤住職へ渡し金5円寺院賄料金3円世話人賄費約金10円人足賃金60銭但し3人分

工事総計　金753円87銭１厘　但し石門２個代は除く
内寄付金　金630円94銭
差　　引　金122円94銭１厘不足

上の不足を生じたるも会計主任の専断に非図ず、到底再寄付能わずに付き瀧澤大通寺松樹を売却その代金を以って補す事にて世話人若干名登山視るに存外数少なり伐木致せば風致を害するに憂ひあり伐採為しがたし以って基本金利子を以て補う相談を為したるものなり。

庫裏便り

相應寺の再建計画

相應寺　石井一義

相應寺の現状について説明します。

創建は、寛永十二乙亥年（一六三五）とされています。その後計三度の火災にあっているという伝承があります。しかし、その都度再建してきたが、近年はすっかり荒廃し、廃屋状態でありました。

そこで近隣の皆様に迷惑が掛からないように、平成二十八年十一月に本堂（廃屋）を解体し、庫裏（かろうじて使える）を残して仮本堂とし、本尊が安置されている状況です。

当相應寺は、境内の一画に江戸時代中期の豊山教学の全盛時に出て、豊山有数の学僧となり、日本密門三僧の一人と称された法印快道の五輪塔の墓碑が祭られている、由緒ある寺です。

今後、金剛寺様はじめ、檀家の皆様及び関係者の皆様のご協力を得ながら、小さいながらも、新本堂の建設、本尊周りを飾る備品等、少しづつ整えて、永代供養の共同墓地等も視野に入れ、寺の形を整備していきたいと役員一同思案しているところです。

今後とも相應寺の再建に多大なご協力をよろしくお願い致します。

東日本大震災復興チャリティーイベント

大前田栄五郎

生誕225周年記念

講談《栄五郎の生涯》と歌謡ショー

日　時：平成29年10月25日（水）
午後6時より

場　所：金剛寺・前橋市苗ヶ島町1147

出演者

講談師　宝井梅湯（たからい　うめゆ）

講談協会所属、山形県南陽市出身
平成27年二ッ目昇進

歌手　岡田しのぶ

群馬県太田市出身

チャリティー募金として1人1,000円以上のご協力をお願いいたします。

お申し込みは金剛寺まで。

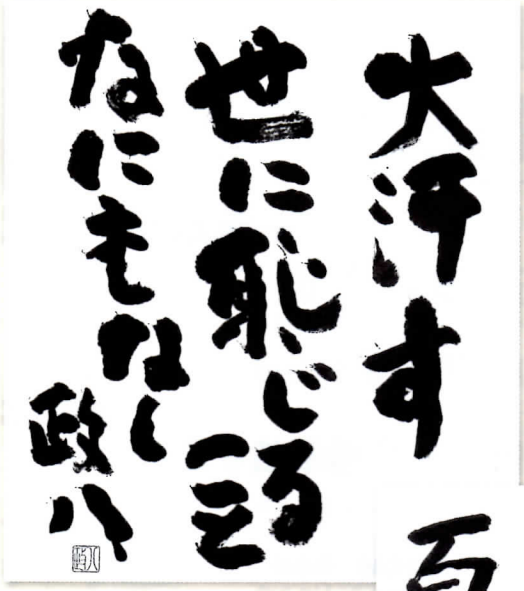
庫裏便り

都道府県別 寺院数ランキング

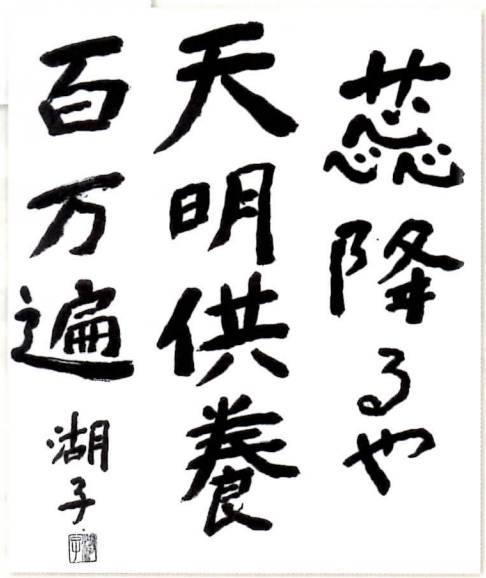
1位	愛知県	4,599
2位	大阪府	3,396
3位	兵庫県	3,281
4位	滋賀県	3,214
5位	京都府	3,082
6位	千葉県	3,005
7位	東京都	2,880
8位	新潟県	2,789
9位	静岡県	2,623
10位	福岡県	2,387
11位	三重県	2,349
12位	北海道	2,334
13位	岐阜県	2,281
14位	埼玉県	2,265
15位	神奈川県	1,897
16位	奈良県	1,816
17位	広島県	1,732
18位	福井県	1,683
19位	和歌山県	1,593
20位	富山県	1,590
21位	長野県	1,554
22位	福島県	1,539
23位	山梨県	1,495
24位	山形県	1,487
25位	山口県	1,434
26位	岡山県	1,398
27位	石川県	1,380
28位	島根県	1,313
29位	茨城県	1,296
30位	大分県	1,244
31位	群馬県	1,209
32位	熊本県	1,201
33位	愛媛県	1,083
34位	佐賀県	1,082
35位	栃木県	993
36位	宮城県	948
37位	香川県	877
38位	長崎県	741
39位	秋田県	682
40位	岩手県	632
41位	徳島県	631
42位	鹿児島県	485
43位	青森県	477
44位	鳥取県	468
45位	高知県	370
46位	宮崎県	353
47位	沖縄県	86
合計		77,254

なんと！主な全国コンビニ数より多いのです
コンビニ数５５６１２店　２０１７年３月現在
ちょっと驚きですね。

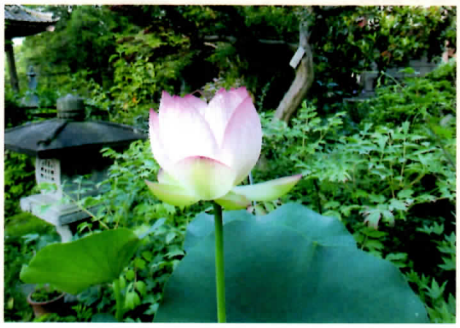
手や足の　汚れは常に　洗えども
こころの垢を　洗う人なし



俳句　故・磯田政八



俳句　井上良男



蓮の花　実が飛ぶ時にポンと音が鳴るんです。

庫裏便り

新里町　長岡様からの年賀はがき

行政相談

行政相談委員は、総務大臣から委嘱されているあなたの身近な相談相手です。

一人で抱えず話してくださいませんか？

定例相談

場所：宮城支所

日時：毎月十八日
※十日のとき、翌月曜日
十三時～十五時

担当委員：志田 洋遠

【無料・秘密厳守】
学校（教育）のことでもなんでもOKです。

みなさん、
聞いてくれたかな？
84.5 MHz
M・wave.

第１回 こどもからの教えて！お坊さん

●お線香の数て決まってるの？

答）そうだね～ふつう３本。
３本の理由は、仏法僧といって
仏　仏さま
法　仏さまの教え
僧　お坊さんを信じる　この３つをお線香の数としているんだよ。
だから、お香も必ず右手でつまんで、３回するんだよ。

●木魚はなぜお魚の形をしているの？

答）それは、魚は昼も夜もけっして目を閉じない
眠る時も目を開けたまま。。
目を閉じないで色々見て、覚えて、努力してね‥
て意味でお魚の形をしているのかなぁ。。

お父さん・お母さんにも聞いてみて・・・
答えられるかな？

平成二十九年 回忌一覧

一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十五回忌	平成五年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
三十七回忌	昭和五十六年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

追善供養は毎年ご命日に行うのが本義です。
この一覧表は、一般的に行われている年回表を表したものです。

ソメイヨシノ　樹齢120年　明治31年植樹

本堂正面より参道を眺む

住職からのおすすめ本

題　名　儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇
著　者　ケント・ギルバート
発行所　講談社
定　価　九〇七円

題　名　政子がいた
著　者　有本佳央
発行所　文芸社
定　価　七五六円

題　名　秋葉原事件
著　者　中島岳志
発行所　朝日新聞出版
定　価　七五六円

題　名　重いけど生きられる
著　者　山本英照
発行所　イースト・プレス
定　価　九五二円＋税

編集後記

平成十六年に創刊号を出させていただいて、早いもので今回十二号を発刊させていただきます。皆様のご理解・ご協力に唯々感謝申し上げます。当山「ホームページ」も皆様のお陰で四九，四九〇名以上のアクセスをいただき順調に数を伸ばしております。

今月号表紙は、群馬中部宗務支所長（高崎市玉田寺住職）鈴木隆彰師に「黙祷でも合掌を」と題して寄稿していただきました。続いて、仏教タイムス記者山崎一昭氏に過分な評価をいただいた文章を寄せていただき赤面の思いです。又、縁有ってこの度原稿をいただいた（藤沢市）川畑輝芳氏には「巣立ちのとき」と題していただきました。これからの長い人生に幸あれと祈ります。

又、本号最年少の小学二年生（河原浜町）きたづめ　ななさんに絵本「ぼくのおいのりがながいわけ」の感想文をいただきました。

昨年から代務住職となりました「相應寺」石井一義様にご多忙の中投稿いただきました。心より感謝申し上げます。

当寺責任役員の東宮惇允様に境内に建立されております「金剛寺興隆碑」に関わる原稿を寄せていただきました。

末筆になりますが、当寺檀徒で小生が感動した俳句を紹介させていただきます。多くの皆様の御縁をいただきながら寺報十二号「道」をお届け出来る喜びに乾杯です。

九州地方の豪雨の被害を受けられた多くの人達に御見舞い申し上げます。そして、亡くなられた方々の御冥福をお祈り致します。

合　掌